



## 指導法改善プロジェクト NEWSLETTER

2009年7月 第7号(最終号)



### 「子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト」が終了します。

2006年5月に教育文化科学省はJICA（国際協力機構）とともに、「子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト」を開始しました。プロジェクトの目標は、「子どもの発達を支援する指導法が、基礎教育のスタンダードに応じて開発される」ことです。

本プロジェクトでは、モンゴル国立教育大学の初等教育指導法開発センター、モンゴル国立大学の理科教育指導法開発センター、モンゴル国立教育大学数学教育指導法開発センター、IT教育指導法開発センターを中心に、授業案を盛り込んだ指導書（物理・化学・人間と環境・人間と自然・算数・数学・総合学習・IT）を作成しました。ウランバートル市45学校、97学校、セトゲムジ校、ドルノド県5学校、ハンウル統合校、マタドソム校、セレンゲ県1学校、4学校、ホシャットソム校をモデル校として、開発した指導書を試行・モニタリングし、指導書の内容を改善するとともに、モデル校における指導法改善も行いました。

プロジェクト期間中に、指導書案の作成、試行授業の実施、指導書の修正という活動を3サイクル実施し、各教科3冊の指導書、モニタリングマニュアル、指導書作成マニュアルを作成しました。

本プロジェクトの最も大きな特徴は、関係者間の協働です。下記のような協働関係が見られました。

- 1) モンゴル国立大学とモンゴル教育大学間の協働
- 2) 大学とモデル校間の協働
- 3) モデル校間の協働
- 4) 市教育局、県 教育文化局とモデル校間の協働

このような協働関係を促進するために、プロジェクト開始当初から3年間にわたって、関係者（大学、教育文化局、モデル

校）を集めた下記の研修会を実施してきました。

#### 1) 指導書作成勉強会

国立大学、教育大学、教育文化局、モデル校教員が参加。作成する指導書の内容を検討し、作成計画を策定しました。（5月あるいは6月に開催）

#### 2) 指導書指導法研修

指導書執筆者と試行授業担当教員が意見交換を行い、指導書案を作成しました。（1・2年目は12月、3年目は9月に開催）

#### 3) 試行授業前研修

試行授業実施直前に、試行授業担当教員や観察教員を対象として、授業の実施方法、授業の観察方法を習得することを目的とする。（2008年2月と2008年10月に開催。）2008年2月には、ウランバートルのモデル校の教頭を新たに試行授業を実施するセレンゲ県とドルノド県の試行授業に派遣し、円滑に試行授業を実施できるように支援しました。

#### 4) 試行授業レビュー会議

試行授業担当教員、観察教員、教育文化局、指導書案を作成した国立大学、教育大学の教員が集まり、試行授業の反省点、教訓などを共有しました。（2007年5月、2008年5月に開催）

本プロジェクトの経験から、さまざまな立場の関係者が協働することが、指導法の開発に有効であることが確認できました。

モンゴルで今後、教科書や教員用指導書が作成される際にも、さまざまな立場の関係者で協力していただきたいし、本プロジェクトがモデルでなれば嬉しいです。



試行授業前研修の様子

#### 目次:

プロジェクトの3年間で ふりかえって	1
モデル校(ソムの学 校)の変化	2
プロジェクトの成果	3
教育文化科学省の 今後の方針	4
プロジェクト終了に向 けて	4
プロジェクト実施機関	4
今後の問い合わせ先	4

## プロジェクトを通じたモデル校(ソムの学校)の変化



ドルド県マドソム校



ドルド県5学校

### \*8教科ワーキンググループ:

指導書作成のために結成された大学教員と学校教員のグループ。

### ■「地域がよき理解者に」 ドルド県マドソム校

マドソム校はドルド県の中心地から約180キロのところの位置しています。1924年に設立された歴史のある学校です。教員数は18名、生徒数約250名です。

Narantsetseg校長が、プロジェクトにモデル校として参加した経験を語ってくれました。

「2年間の試行授業で、延べ120時間の試行授業を7教科で実施し、そのうち24時間分をビデオで撮影しました。生徒の5割が試行授業に参加しました。

総合学習の授業では、村について調べるために、学校の外へ出て活動しました。多くの人に話を聞くのは、子どもにとって大変なことでした。けれど、難しい課題を克服したことで、子どもたちは以前よりも活発になり、宿題もちゃんとやるようになりました。成績も上がったようです。

算数の授業では、試行授業を通じて子どもに正解を見つけることを急がせないように努めました。その結果、子どもは問題について自由に話すようになり、クラスメートか

らも学ぶようになりました。

試行授業を行うにあたって、村では見つけにくい教材もありました。理科の授業では村で手に入るものを活用しました。立派な材料を使った授業よりもいい授業だったと、子どもたちは喜びました。

小さな学校なので十分な数の教員がいません。数学とITの試行授業を1人の先生が担当することになっていましたが、負担が大きいため英語の先生と教頭先生が手伝いました。ウランバートルから8教科WG\*メンバーが視察に訪れた際、この授業を高く評価してくれました。これは学校中を勇気づけてくれました。

保護者や村役場の人々に対してもプロジェクトの説明をしました。外国からの支援を受けたプロジェクトという物的環境の整備を思いうかべる人が多いのですが、このプロジェクトでは指導法の改善を目標にしています。このことを理解してくれた人はその後、学校のよき理解者、支援者になってくれました。ドルド県内のモデル校3校間で指導法改善のために協力したことも有効でした。」



セレンゲ県ホシャットソム校



セレンゲ県1学校

### ■「学校全体で変化がありました」 セレンゲ県ホシャットソム校

ホシャットソム校は、セレンゲ県のスフバートル市から約110キロ離れたところにあります。学校は1987年に設立され、教員数は16名、生徒数は約120名です。2008年の2～3月と11～12月の2回にわたって、数学を除く7教科で試行授業を実施しました。

初等担当のOyuntsogzolmar教頭が、同校の変化を下記のとおり語ってくれました。

「教員も子どもも少ない小さな学校なので、試行授業担当教員だけではなく、学校全体で指導法改善に取り組みました。小学校で総合学習の試行授業を経験した子どもが、中学校に進学した時、教員が彼らの能力の高さに驚いたことがあったそうです。

モデル校としてプロジェクトに参加したことは、教員と子どもだけではなく、保護者にも大きな影響を与えたようです。まず授業参観に来る人が増えました。特に総合学習の授業で、子ども表現力の豊かさに驚いた保

護者が多かったそうです。授業を見て感動した保護者は、理科の実験などを支援するようになったとも聞いています。

とはいえ、最初からすべて順調であった訳ではありません。試行授業で使う教材を生徒の人数分そろえるのは難しいことでした。また、同校には親元から離れて寄宿舎に住む子どももいます。こうした子どもの保護者はなかなか学校に来ることができないので、指導法の変化を実感してもらうことは難しいです。

学校の図書館は蔵書数も少なく、県中心地からも遠いので情報の伝達にも難しい部分があります。こうした困難をかかえながらも、本校では、授業研究を学校全体で導入したり、近隣の住民や企業に対して指導法を紹介して協力を得られるよう努力しています。」

## プロジェクトの成果

本プロジェクトの成果としてまず挙げられるのは、8教科3冊ずつの指導書、モニタリングマニュアル、指導書作成マニュアルです。けれども、本当の成果は、上記の事柄だけではありません。指導書作成において、外部査読者\*を務めたウラマー国立大学物理学教授は、プロジェクトの成果について、次のように言ってくださいました。「このプロジェクトの本当の成果品は2完成した指導書ではなく、指導書作成に伴って意識改革され、育成されてきた人材です。大学、教育研究所、学校現場が相互に理解し合い、一緒に取り組んできたことが一番大きな貢献だと思えます。」

### ■ プロジェクト終了時評価結果

2009年3月、教育文化科学省とJICAが、プロジェクト終了時評価調査を実施しました。教育文化科学省の指導法改善に対する熱意も高く、プロジェクト終了後もモンゴルの人々によって指導法改善が継続されていく見込みであると高く評価されました。

### ■ エンドライン調査の結果

プロジェクトを通して生じたモデル校教員

### ■ 「普通教育学校の授業をモニタリングするマニュアル」

ここでは、第3年次指導書と一緒にモンゴル全国の学校に配布される「普通教育学校の授業をモニタリングするマニュアル」についてご紹介致します。

ここで言う「モニタリング」とは、「一般的に教えることと学ぶことを支援し、それを発達させる目的で組織されている授業分析、研究活動」という意味です。このモニタリングを「授業の準備段階」「授業の段階」「授業の結果を分析しまとめる段階」で実施することで、教員の指導法を改善し、子どもたちの学びを深めることができます。

このモニタリング方法の開発は2006年末、日本で使用されている授業観察用フォームを参考にモンゴルの学校で使用できるフォームを作成した作業から開始しました。このフォームは、2007年1月末～4月に実施した試行授業で活用されました。同年11月から、本マニュアルの原案の作成が開始、2008年2～4月に実施された

の変化を確認するために、Mongolian Education Allianceに委託してエンドライン調査を実施しました。

調査結果によれば、モデル校教員の指導法や教員間の協力などに良い変化が起きているそうです。特に印象的だったのは次の2点です。

- プロジェクトの活動が始まる前は、教具や教材の不足が問題であった。しかし現在では、教員が簡単な教具を自分で作成し、授業に役立っていることが分かった。
- モデル校の教員が、プロジェクトの成果が、他の学校へも普及されるべきであると考えている。また、その普及活動を担っていきたいという意思を表した。

さらに、プロジェクトの成果を他の学校へ普及させるための課題として、学習指導要領の見直しや生徒/教員の評価方法の見直しが必要であることなどが指摘されました。6月末の終了時セミナーでは、これらの課題についても議論を行います。



\*外部査読者：  
1, 2年次指導書は、ウラマー国立大学教授と教育大学のエルデネツェツェグ教授が、  
3年次指導書はウラマー教授が務めた。

試行授業を通して改善されました。さらに、2008年9月には、ウランバートル市の3つのモデル校教頭と8教科ワーキンググループの担当者を中心に、モニタリング・ワーキンググループが正式に結成され、2008年11～12月の試行授業の結果も反映させて、本マニュアルが完成しました。

みなさんは授業を観察する時、何を中心に観察していますか？教員を評価しようとしてはいいのでしょうか？授業の観察でもっとも重要な視点のひとつは、子どもが授業に参加している様子です。教員の説明は子どもにとって分かりやすいか、子どもに考えたり発言する時間を十分与えているか、子どもがつまづいた時に教員はどのように対応しているか…本マニュアルを学校での指導法改善に是非、役立ててください。



モニタリングWGの会議

**今後の問い合わせ先****モンゴル教育文化科学省****JICAモンゴル事務所**

初等教育指導法開発センター  
理科教育指導法開発センター  
数学教育指導法開発センター  
IT 教育指導法開発センター

教育文化局:  
ウランバートル市教育局  
ドルノド県教育文化局  
セレンゲ県教育文化局

モデル校:  
ウランバートル市45学校  
97学校  
セトゲムジ校  
ドルノド県5学校  
ハンウール統合校  
マタドソム校  
セレンゲ県1学校  
4学校  
ホシャットソム校

**教育文化科学省の今後の方針**

教育文化科学省も本プロジェクトの成果を高く評価しています。

プロジェクトで開発された指導法普及の為に計画を現在、策定しています。普及の為に下記のような計画をしています。

- ・指導書をモンゴル全国の教員1人1人に配布できるように指導書を印刷する。
- ・指導書を配布するだけでなく、指導書の活用方法についての研修を実施する。
- ・授業研究や“つまずき”など本プロジェクトで紹介された概念をモンゴル

国内でも幅広く理解されるように、わかりやすく説明する。

6月26日に開催される終了セミナーでも指導法普及計画を参加者と議論します。

**プロジェクト終了に向けて**

子どもの発達を支援する指導法を紹介するために作成した映像教材が、5月18～27日、モンゴルの教育テレビ局で全国放送されました。新学期が始まる9月にも再放送される予定です。

本プロジェクトが完了する2009年7月末までに、下記の成果品が完成し、モンゴル全国の学校に配布される予定です。

- 1) 第3年次指導書(映像資料添付)
- 2) 「普通教育学校の授業をモニタリングするマニュアル」
- 3) 「指導書作成マニュアル」  
(今後の指導書作成の参考とするために、本プロジェクトの指導書作成過程をまとめたもの)

プロジェクトチームでは、これらの成果品が、本プロジェクトで開発した指導法を普及し、モンゴルの学校における指導法

改善に貢献することを期待しています。

現在、ウランバートル市内の非モデル校はもとより、ボルガン県、スフバートル県、南ゴビ県、ゴビアルタイ県の県教育文化局や学校からも、指導法や指導書についての問い合わせを受けています。

また、8教科ワーキンググループは教科書の執筆や教員養成課程で指導法を活用している他、ウランバートル市、ドルノド県、セレンゲ県では、教育局／教育文化局専門家とモデル校が非モデル校校に対して子どもの発達を支援する指導法を伝える活動を始めています。

プロジェクト完了後も、プロジェクト関係者がこれらの活動を継続してくれると信じています。

**プロジェクト実施機関**

これまで本プロジェクトの実施機関として、下記の機関が活躍してきました。

モンゴル教育文化科学省、教育研究所、初等教育指導法開発センター、理科教育指導法開発センター、数学教育指導法開発センター、IT教育指導法開発センター、ウランバートル市教育局、ドルノド県教育文化局、セレンゲ県教育文化局、ウランバートル市45学校、97学校、セトゲムジ校、ドルノド県5学校、ハンウール統合校、マタドソム校、セレンゲ県1学校、4学校、ホシャットソム校

この場を借りて、モンゴル指導法改善のために尽力されている方々に、心からの感謝とエールを送ります。